

調査・研究事業の概要

平成 22 年度

実施してきた主な予算事業は以下の通り。

1. 石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査

被認定者や医療機関において当該疾病の診断を受けた者について、医学的所見の解析を行い、適切な診断手法・技術の確立を目指す。

(1) 中皮腫の鑑別診断の在り方調査（継続）

救済制度において中皮腫の認定を受けた者や医療機関において当該疾病の診断を受けた者について、資料を収集の上、病理組織学的な観点から解析を行った。（広島大学・井内康輝先生）

(2) 胸水ヒアルロン酸、胸水腫瘍マーカー測定値に基づく中皮腫診断補助検査の確立に関する調査（新規）

胸水中ヒアルロン酸や各種腫瘍マーカーについて、胸膜中皮腫とその他の鑑別すべき疾患との比較検討を行い、中皮腫診断における有効性について検証を行った。（(独)労働者健康福祉機構）

(3) 腫瘍組織における遺伝子の構造及び発現の相違に関する調査（新規）

遺伝子検索を行い、遺伝子発現制御機構やゲノム構造を網羅的に解析する。将来的に中皮腫、石綿による肺がんの早期診断手法・技術の確立を目指した研究を実施した。（癌研究所(財)・石川雄一先生）

(4) 病理組織標本における石綿小体計測及び胸腔鏡所見による医学的所見の評価に関する調査（新規）

病理組織切片中で確認できる石綿小体数や放射線画像上以外により確認できる胸膜プラークについて、ヘルシンキ・クライテリアとの相関関係について検証を行った。（東京女子医大・廣島健三先生）

(5) 石綿小体等計測技術の普及啓発に関する調査（継続）

気管支肺胞洗浄（BAL）の検体（BALF）による石綿小体計測について、症例選択基準、計量方法を含む標準的な実施手技及び判定基準を検討し、その成果を国内の医療機関等向けに普及啓発を行った。（東洋大学・神山宣彦先生）

(6) びまん性胸膜肥厚に関する調査（新規）

びまん性胸膜肥厚に係る医学的判定上の課題を検証し、適切かつ効率的な医学的判定の在り方について提言についての検討を実施した。

((独)労働者健康福祉機構)

2. 石綿肺の診断に関する支援事業（新規）

医学的判定の結果、石綿肺ではあるが、救済相当に当たらないとされた軽症患者に対し、年に1回の健康診断の機会を付与する仕組みについて検討した。

((独)環境再生保全機構)

3. 石綿関連疾患に係る文献調査（継続）

国内外における石綿健康被害に係る最新の知見を収集・解析する。特に、びまん性胸膜肥厚や、IARCのコンセンサスレポート（咽頭がん、喉頭がん、卵巣がん等の石綿起因性について）に関連する文献の収集を実施してきた。

(アークエンジン(株))

4. 石綿健康被害救済制度に関する海外動向等調査（継続）

近隣諸国の政府関係者等を対象として、石綿健康被害救済の在り方に係る意見交換を行うもの。本年度については、救済制度を発足させた、韓国についての調査を実施した。(東京海上日動リスクコンサルティング(株))

5. 石綿健康被害救済制度に係る調査結果の医療関係者に対する還元（継続）

石綿関連疾患を診療することの多い全国の医療機関に対し、石綿健康被害救済制度に係る調査結果を還元する講習会を開催するもの。本年度については、本年度は富山市(2/27)と名古屋市(3/5)で実施。(オーエムシー(株))

6. 被認定者に関するばく露状況調査（継続）

被認定者について、職業歴、居住歴、生活歴等に係る詳細なアンケート調査等を実施し、石綿ばく露の状況を把握するもの。また、労働現場と関連するばく露歴が明らかでない者については、石綿が一般的に使用されていた期間中の居住地を調査した。((独)環境再生保全機構)

7. 一般環境経路による石綿ばく露の健康リスク評価に関する調査(継続)

一般環境経路に石綿ばく露の可能性のあった代表的な調査対象地域(全国7地域)において、石綿ばく露者の中・長期的な健康管理のあり方を検討するための知見を収集するため、石綿のばく露歴や石綿関連疾患の健康リスクに関する実態把握の調査を実施。

(大阪府、尼崎市、鳥栖市、横浜市、羽島市、奈良県、北九州市)

平成 23 年度

実施を予定している主な予算事業は以下の通り。

○新規実施を予定している事業

1. 石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査

(1) 中皮腫の長期生存例等の解析調査

中皮腫は予後の悪い疾病として知られるが、石綿健康被害救済制度で認定された中皮腫案件のうち、長期間生存された症例を検討し、症状や治療についての情報を集めることで、中皮腫の病態や治療についての知見を得る。(広島大学・井内康輝先生)

(2) 石綿肺等の呼吸機能評価指標の在り方に関する調査及び検査機器の開発調査

著しい呼吸機能障害を伴う石綿肺及びびまん性胸膜肥厚については、呼吸機能障害の程度について、呼吸機能検査または血液ガス分析についての基準が明示されているのみであり、6分間歩行試験等に関しては参考という位置づけである。本開発調査では、6分間歩行試験等のより定量的な検査のあり方を、機器の開発を含めて検討し、著しい呼吸機能障害を伴っていると判断できる再現性の高い基準の確立のための知見を収集する。(北海道大学・宮本頭二先生)

○継続を予定している事業

1. 石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査

(1) 胸水ヒアルロン酸、胸水腫瘍マーカー測定値に基づく中皮腫診断補助検査の確立に関する調査 ((独)労働者健康福祉機構)

(2) 腫瘍組織における遺伝子の構造及び発現の相違に関する調査 (癌研究所(財)・石川雄一先生)

(3) 病理組織標本における石綿小体計測及び胸腔鏡所見による医学的所見の評価に関する調査 (東京女子医大・廣島健三先生)

(4) びまん性胸膜肥厚に関する調査 ((独)労働者健康福祉機構)

2. 石綿肺の診断に関する支援事業 ((独)環境再生保全機構)

3. 調査結果の医療関係者に対する還元事業

4. 石綿健康被害救済制度に関する海外動向等調査 (東京海上日動リスクコンサルティング(株))

5. 被認定者に関するばく露状況の解析調査 ((独)環境再生保全機構)

6. 一般環境経路による石綿ばく露の健康リスク評価に関する調査 (大阪府、尼崎市、鳥栖市、横浜市、羽島市、奈良県、北九州市)